

雪積みに挑む

西仙北町でスノーピラミッド大会



紅一点の吉岡さんはスコップ作業はもどかしいが大喜び

「賞金の十万円は我が国の国家予算に」と豪語したのは大阪のそやんか合衆国大統領・北浦浩さん(83)。「こまかく参加することに意義があるんです」とつましやかなのは東京・八王子市の銀杏園外務卿・吉岡利江子さん(23)。――二十三日、西仙北町刈和野の東立西仙北高校グラウンドで開かれた「86スノーピラミッド世界大会」に参加したミニ独立国代表者の片だった。

スコップ一丁を道具に、どれだけ高い雪のピラミッドを築けるかを競うユニークな雪まつり。西仙北町の独立国「秋田カエル村」(代表佐々木正光さん)の呼び掛けで、地元勢十九人にミニ独立国の四カ国人が参加した。

賞金は一位はポンドと十万円、入賞者にはカエル村特産「シソ」一分、大綱漬たくあん、一年分など、間の雪との格闘、広いグラウンドに思い思いのスタイルを求めて放った選手たちは、スコップ一丁を道具にせよとピラミッドづくりを開始。積み地帯からは高きだけ、面からの高さだけでなく、仕上げ後はピラミッドの頂上に製作者が上られるかどうかという厳しい条件つき。

ともかく雪をかき集め、積み上げる。雪に慣れた地元勢はさすがなもの。基礎を固めた後は、ミカド稲大に雪を切らせて、せとブロック積み、自分達の背文を施すと雪のブロックを背負って雪山をよ

じ登る奮闘ぶり。汗と雪で着衣はグショグショ。一方の外人勢。「ピヤ、雪ってこんなに重かったの」。島根県出雲市の「おちち王国」代表原田和徳さんは途中でキブアンプ。「賞金は我が国のものに」と豪語した北浦大統領もその実力を手にしたもの。雪の回りを後ろ向きに放り投げるという変形フォームでわずかに十分でタワー、ストープを前に休憩。周囲の冷かしには「いやいやこれはウサギとカメの競争、これからです」と余裕感をひくも、休憩、再挑戦と孤軍奮闘したが、ついに勝負をあきらめ、地元勢の



「雪の山はこうして築くもの」と雪を肩に担いで登る地元勢

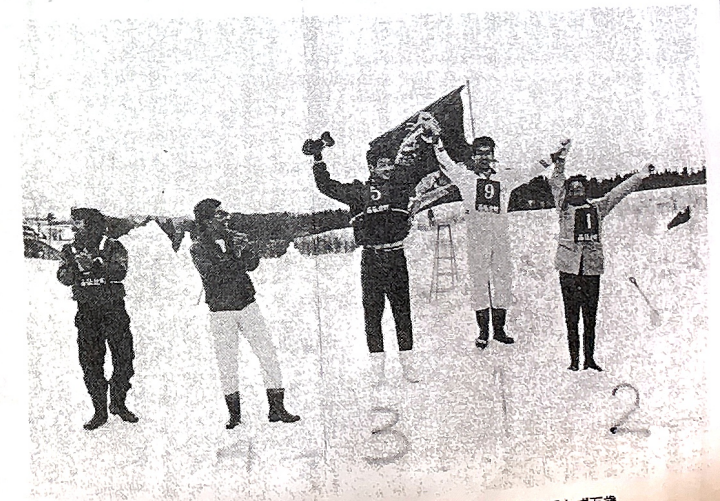


出来あがった雪の塔。測る人も登った人もハラハラ



浪の大統領は後ろ向きに雪をはおる変形フォームで雪積み

カメラルポ



ヤッたぜ、賞金十万円を手にした佐々木さんを中心に入賞者は思わず万歳